

## 血液凝固異常症等に関する調査研究

研究分担者：宮川義隆 埼玉医科大学 教授

### 研究要旨

血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）は、急性に発症し致死的になりうる血液難病である。国内の疫学、診療について不明な点が多く、臨床個人調査票データを用いた解析を計画する。同時に TTP 診療ガイド改訂準備を進める。

#### A. 研究目的

TTP の疫学調査を行う。同時に TTP ガイドライン改訂作業を進める。

#### B. 研究方法

厚生労働省 難病対策課に、TTP 臨床個人調査票のデータ提供を依頼する。TTP ガイドライン改訂作業として、クリニカルクエスチョンを選定する。

（倫理面への配慮）

埼玉医科大学 倫理審査委員会にて承認を得た。

#### C. 研究結果

臨床個人調査票のデータを入手後、令和 4 年度に解析を行う。TTP ガイドラインのクリニカルクエスチョンとして、抗 CD20 抗体医薬リツキシマブを急性期、難治例、寛解期の再発予防の投与を選んだ。

#### D. 考察

令和 2 年 9 月に臨床個人調査データの提供を申請し、令和 3 年 2 月に同データ提供が承認された。

#### E. 結論

難病対策課に TTP 臨床個人調査票のデータを申請して承認された。令和 4 年度に TTP 疫学データの解析と、Minds 形式に基づくガイドライン改訂を行う。

#### F. 健康危険情報 該当なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) Rondeau E, et al. Efficacy and safety of the long acting C5 inhibitor, ravulizumab, in adult patients with aHUS naïve to complement inhibitor treatment. *Kidney Int* 97, 1287-1296, 2020
- 2) 宮川義隆、非典型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) の診断と治療、*日内会誌* 109, 1363-1369, 2020
- 3) 宮川義隆、血栓性血小板減少性紫斑に対する分子標的治療、*血栓止血誌* 31, 28-36, 2020

##### 2. 学会発表

- |   |                         |
|---|-------------------------|
| 1) <u>宮川義隆</u> . 妊娠関連血栓性微小血管症. 第72回 日本産婦人科学会学術講演会、生涯教育プログラム | <b>H. 知的財産権の出願・登録状況</b> |
| 2) <u>宮川義隆</u> . 血栓性血小板減少性紫斑病の最新治療. 第82回 日本血液学会総会、教育講演      | 1. 特許取得<br>なし           |
|   | 2. 実用新案登録<br>なし         |
|   | 3. その他<br>なし            |